

次世代足場に認識深める

山口アルク(富山市) 信和(株)から講師招き勉強会



次世代足場の組立作業を見学する社員

山口アルクグループ(本社・富山市飯野、山口貴久社長)はこのほど、システム足場製造で国内トップの信和(本社・岐阜県海津市)から講師を招いて、次世代

足場「SPS(サイレントパワーシステム)」に関する勉強会を富山本社で開催し、社員への周知を図った。足場については近年、安全の向上や作業負担軽減などから、従来の枠組足場やクサビ式足場から次世代足場に移行してきている。SPSは、信和が開発した次世代足場。くさび足場に近い仕組みでありながら、より高層現場に強くなっている。このため、大手ゼネコンや高層マンションを請

け負う建築会社からの引き合いも増えているという。

安全性を実感

この日は同グループの社員約40人(ZOOM視聴含む)が参加。はじめに本敷地内で、信和杉戸機材センターの木屋第一副センター長と三上浩一担当課長が、SPSの組み立てから解体までを実演。組み立て後、SPSに乗った社員の一人は、手でパイプを揺らしながら「従来よりも安定している」と安全性を実感していた。

続いて社屋内に移動し、信和営業本部の高木隆行次長が、足場業界の動向やSPSの特徴などを説明した。SPSについて「業界最大の40mm幅広ポケットの採用で、強力な堅結力を発

揮し揺れにくい。3面支持構造で安定し、水平配置のくさび受けポケットで上下のくさび受け合わせが不要」などと安全性が高い点を強調。樹脂ハンマーの使用で、静音性も高い上、パイプなどを傷めにくい点もメリットに挙げた。一般的な枠組足場の施工歩掛り50平方メートルに対し、SPSは70平方メートル/人が見込め、約40%の施工効率向上を実現。高職人の減少・高齢化が急激に進む中、「いずれ足場の切り替えが必要になる」と述べ、将来性についても優位であるとした。NETISの登録商品にもなっている。

山口社長は「社員みんながSPSについて認識を深めるいい機会になった」と話していた。

足場を通じて、社会を支える。

住宅から大型公共施設まで、建築になくはならない「足場」。長年にわたり建築現場で活躍してきたくさび緊結式足場、静音性にこだわった次世代足場など、創業以来培ったノウハウと時流をとらえた革新性で、より良い社会の発展に貢献し続けます。

信和株式会社
本社 / 岐阜県海津市平田町仙師川 30-7 TEL: 0584-66-4411

仮設資材・物流機器製造のリーディングカンパニー
<http://www.shinwa-jp.com/>

次世代足場

SILENT POWER SYSTEM

強い構造
打撃ポイントは2重構造。打撃ポイントの強度アップにより打撃頻度による損耗を軽減。

足場の騒音と揺れ大幅に軽減

次世代足場「SPS」のリースは

山口アルク株式会社
富山市飯野1番1号 TEL.076-452-0043
FAX.076-452-0810

新連結方式支柱
目視でロック状態がわかる連結方式